

新浪微博 (Sina Weibo) にブログを開きました

私の中国語の先生 (中国人) の勧めで、中国のブログサイト「新浪微博」に、私のブログを開設しました。

きっかけは、靖国神社問題です。

この先生は京都に在住しており、学習はSKYPEで行っているのですが、時々、日中関係について意見交換することがあります。昨年12月の安倍首相の靖国神社参拝を契機に再燃した日中関係悪化について、私の見解を初歩的な中国語で書いて同氏に見てもらったとき、「一般的な日本人の一つの意見として参考になる」と言い、かなり推敲してくれたうえ、「新浪微博に登録してこの論文を掲載してはどうか」と提案してくれました。

私の見解は、今更日本語で書いても新鮮味のない内容なのですが、一般の中国の人々に読んでもらう機会があればそれなりに日中友好にプラスになるのではなかろうかと考え、同老師 (中国語では先生のことを老師と呼ぶのが通常) の助けを借りて、どうやら登録できました。

(URLは、<http://blog.sina.com.cn/u/5044688052> です)

そのサイトに、「靖国神社問題の温差」「中国憲法と日本国憲法」「神社文化」の3編を掲載しました。本日は「靖国神社問題の温差」の邦訳をご紹介します。

(中国語の原文は、上記サイトをご覧ください)

<靖国神社問題の温度差>

(前書き) 私は一人の日本人です。現在、中国語を勉強しており、日中関係の友好が促進されることを切に願っています。このブログは中国の人々に、一般的な日本人の一つの考え方を紹介して、中国の人々の理解を得たいとの思いから発信する次第です。私は靖国神社問題について、日中相互の理解が深まることを切望しています。

(本文)

私はごく一般的な一人の日本人として、現在両国間で発生している「靖国神社問題」について憂慮しております。長年、私なりにこの問題を解決する方法はないものか模索してきました。私はごく普通の78歳の日本人男性でして、日本政府の関係者ではありませんし、どこかの政治団体にも加入しておりません。

はじめに

昨年十二月に安倍首相は靖国神社を参拝しました。このため、中国政府と韓国政府は嚴重抗議を声明し、今回は米国政府まで異議を唱えました。この問題はどうか国際問題としての広がりを見せております。

私は、アジアの平和維持のため、日本と中国が相互に協力しあうことが大切であると思います。しかし、現在両国間にはいろいろの問題があります。その

中でも深刻な問題は、「靖国神社問題」と「尖閣諸島問題」です。

私は、今回、「靖国神社問題」について、以下の提案をします。

周恩来総理の講話（対日観）を回顧する

1949年10月、中華人民共和国建国の時期、日本国は敗戦からの復興の最中でした。戦後の深刻な後遺症に苦しんでいました。日本は、1930年から1945年までの15年間、中国、米国、英国、オランダ、ソ連などと戦火を交えてきました。この戦争の最後の段階で、米国が原子爆弾を使用し、1945年8月敗戦を受け入れました。1948年11月、戦時中の日本の指導者たちは、極東軍事裁判で断罪されました。当時の日本政府と一般の日本人たちはこの軍事裁判で発言する機会はありませんでした。なぜなら、当時日本国は米国の占領管理下であり、民意を反映する手立てがなかったのです。

それ以来、日本政府と一般の日本人たちは、中国人民に対してどう謝罪したらよいか模索してきました。

周総理はそのころ、「戦争責任は日本の指導者たちにある。一般の日本人たちはむしろ被害者である」旨発言しました。

当時、この周総理の声明について、日本政府も一般の日本人たちも反応しませんでした。日本人たちには理解できなかったからです。

しかし、この発言に助けられ、当時中国に残留していた日本人たちは、一般の中国人たちから復讐されることなく、無事に帰国できました。一般の中国人たちが周総理の言葉を理解したからです。

しかし、それ以来、未解決の問題が残りました。

中国政府は、周総理の講話通り、戦中の日本政府と一般の日本人たちの関係を理解していましたが、日本側は無回答でした。中国側は日本側の沈黙は「同意」であるとみたようです。以来「中国人民と日本国民は一緒に戦時中の日本の指導者たちを批判していこう」となりました。

日本民族は一体であり、二つに分断できない

このような中国側の思い込みは、日本人に対する誤解でした。けれども、この誤解の原因は日本側にあります。

周総理の言明に対する日本側の無回答が問題として残りました。

日本側は「日本民族は一体であり、二つに分断できない」と回答すべきでした。けれども日本は周総理の言葉が理解できず、反応しませんでした。

一般の日本人たちの極東軍事裁判A級戦犯に対する見方は「彼らは決して特別の日本人ではなく、一般の日本人たちです」というものです。たまたま戦時中の指導者になったのです。彼らは日本各地の農村、漁村、都市からやってきた人々でした。

当時、日本には特別の指導者は存在しませんでした。当時の指導者たちは、

全員で協議して政策をきめました。世界は帝国主義時代で連合国と枢軸国に二分され、日本は枢軸国に属しました。これは誤った政策でした。アジアの人々に危害を加えました。結果、われわれの指導者たちは、連合国の断罪を受けました。

許す風習

国により、民族により風習は異なります。日本には「罪人も罰を受けた後は、許される」という風習があります。大多数の日本人たちは「断罪されたA級戦犯たちも、罪を贖い許された」と思っています。

神社も日本文化

中国は悠久の歴史と文化の伝統を持っています。日本も同様です。日本人にとって神社は、参拝の対象でもあり、文化の一つです。たとえば、元旦の初詣、七五三のお祝い、結婚式の場などです。神社は神道という日本宗教の建物です。神道は日本の原始宗教です。特別の教義はありません。古代の日本人は自然にはたくさんの神が宿ると信じていました。山、海、樹木、などはすべて神でした。日本人の祖先は天から降りてきたと信じていました。天から降りてきた神々は八百万神と呼ばれています。普通の人でも業績のある人々は死後神になります。多くの人々が死後神とされます。現在日本には、85,000社の神社があります。このような神社文化は外国人にはわかりにくいと思います。

日本政府の説明不足

現在の日本政府もこのような日本文化について説明する責任があります。なぜ説明していないのか？理解できません。あるいはすでに中国側に説明したが、理解されなかったのかもしれませんが。ほかの国の文化を理解するのは簡単ではありません。

問題解決を切望します

私は中国側が日本独特の風習を理解し、靖国神社問題も日本文化であるとの理解に至ることを切望します。

このような国内問題を国際問題と捉えれば、解決方法はありません。

かつて周総理が投げかけた課題に回答しなかった日本側にも責任があります。一般の日本人の一人として、日本が一時期中国にもたらした行為に対して、心からお詫びします。中国側の寛大なご配慮をお願いします。

そして以下のような了解点で合意できれば幸甚です。

1. 靖国神社問題は日本の文化であり、中国は干渉しない。
2. 両国は、未来志向で相互協力する。

このような了解点に達すれば、両国の友好関係は発展し、貿易、投資、人の交流がますます盛んになり、両国人民の生活水準の向上に役立つでしょう。